

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 生城福社会  
地域密着型特別養護老人ホーム  
おうぎの里

## 1. 施設運営状況

### ①地域密着型介護老人福祉施設入所生活介護

地域密着型特別養護老人ホームおうぎの里（定員29名）

月別入居者状況（令和5年3月31日現在）

月	延入居者数	延入院者数	延入院日数	延外泊者数	新規入居者数	退居者数	稼働率
4	870	0（実入院者数0）	0	0	0	0	93.1
5	868	3（実入院者数1）	3	0	1	0	96.6
6	840	67（実入院者数4）	67	0	0	0	96.6
7	875	67（実入院者数7）	67	0	1	1	97.3
8	898	31（実入院者数3）	31	0	1	0	99.9
9	870	86（実入院者数3）	86	0	0	0	100.0
10	899	45（実入院者数3）	45	0	0	0	100.0
11	852	49（実入院者数3）	49	0	0	1	97.9
12	885	99（実入院者数5）	99	0	1	1	98.4
1	848	131（実入院者数5）	131	0	0	4	94.3
2	672	28（実入院者数1）	28	0	0	0	82.8
3	765	45（実入院者数2）	45	0	2	1	85.1
年間	10145/10585	—	651/454	0	6	8	95.1

新年度を27名(2名欠員)でスタートする。令和4年秋以降体調不良者が多く、年間を通じて入院者が令和3年度より延約200名多かった。またその多くが医療度が増し、治療が必要な状態になり病院での生活に移行する方がほとんどで、退去者も昨年度に続き年間8名と高水準であった。加齢に伴う医療および介護の重度化が要因と思われるが、その一部には早期に他の対応で状況が改善できていたかもしれないケースもあり、体調不良者への早期のアセスメントや対応が求められる。ここ3年間は退居者が多く、その反面待機者の獲得が困難になりつつある。対策として入居申込者を増やしてはいるが、疾患等があり受入れが困難な方もおり入居待機者については昨年に引き続き減少した。これは退居者が入居希望者を上回るペースで増加したためである。市内居宅介護支援事業者及び介護老人保健施設、小規模多機能施設等の入所施設、医療機関との連絡相談体制の強化は大きく推進できた。他事業者と協働で在宅復帰や施設入居の相談に乗ることができ、待機者増加に寄与した。入居待機者のフォローについては入居待機者名簿に登録のある全登録者へ郵送及び電話連絡により定期的（年1回）に現状の把握に努めた結果、入居要件を満たす者やすでに他施設に入居したり死去している者もおり、名簿の精査に努めた。入院者数については昨年度を大きく上回り、入居者の高齢化に伴い健康管理の重要性がさらに増している。入院中の空きベットについてはショートステイの空床として積極的に活用した。

入退居者の状況としては退居者8名、入居者6名。退居者の退居理由は体調悪化に伴い医療的処置が必要になり医療機関へ転居したケースが6名半数に上る。退居理由をみても高齢化、重度化を感じる結果となった。

要介護度分布（毎月1日現在）

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	入居者数	平均介護度
4	1	0	2	10	14	27	4.3
5	1	0	2	11	14	28	4.3
6	1	0	2	11	14	28	4.3
7	1	0	2	11	15	29	4.3
8	1	0	2	10	15	28	4.4
9	1	0	2	10	16	29	4.4
10	1	0	2	9	17	29	4.4
11	1	0	2	9	17	29	4.4
12	1	0	1	9	17	28	4.5
1	1	0	1	9	17	27	4.5
2	1	0	1	8	14	24	4.4
3	1	0	1	8	14	24	4.4
年 間							4.3

入居前の住所地（令和5年3月31日現在）

志和町	八本松町	西条町	高屋町	福富町	豊栄町	河内町	黒瀬町	安芸津町	計
15	3	1	2	2	0	1	1	0	25

入居期間（令和5年3月31日現在）

入居期間	男性	女性	計
0.5年未満	0	3	3
0.5～1年未満	0	1	1
1～2年未満	3	4	7
2～3年未満	1	1	2
3～4年未満	0	2	2
4年以上	0	10	10
合 計	4	21	25

年齢層分布（令和5年3月31日現在）

年齢	男性	女性	計
60～69歳	0	0	0
70～79歳	0	1	1
80～89歳	2	11	13
90～99歳	2	9	11
100歳以上	0	2	2
最高齢	95	101	101
最若齢	82	80	80
平均年齢	88.50	89.00	88.92

②併設型ユニット型短期入所生活介護  
 ショートステイおうぎの里（定員5名）

■稼働率（令和5年3月31日現在）

稼働月	稼働率	内 容
4月	142%	※空床を利用して2名利用者を受け入れたことと、家族や担当ケアマネと話し、利用者の環境を再評価し利用日数を増やした結果高い稼働率を維持できた。
5月	117%	※空床を利用していた1名が特養へ入居になったことと、今月を最後に施設へ入居になった方が3名おり稼働率は下がったが、新規利用も1名獲得できたため高水準を維持。
6月	116%	※施設入所などで利用者が減少したが、新規利用者を1名獲得したことと急なロングSSの依頼に対応できたため稼働率は先月の水準を維持できた。
7月	110%	※施設入所などで利用者が減少したが、新規利用者を4名獲得、数年ぶりの利用者もおり稼働率は高水準を維持できた。
8月	101%	※特養の空床がなくロングのSSが受けれない中、新たに新規利用者2名獲得し、効率よく配室したことでショート単独としての稼働率は高水準を維持できた。
9月	125%	※新規利用者がリピーターとして使用していただけたことに加え新規利用者が5名獲得できた。また入院ベッドを使用し速やかに空床を利用して受け入れを実施したため稼働率は高水準を維持できた。
10月	110%	※定期利用者がけがや体調不良で長期入院をしている中で新規利用者を1名獲得できたことと普段利用の少ない利用者に声をかけ久々の利用を促すなどに努め稼働率は高水準を維持できた。
11月	125%	※新規利用者を2名獲得し、定期利用者の家族の体調不良のサポートとして空床を利用しロングSSを受け入れたため稼働率は高水準を維持できた。
12月	146%	※新規利用者を1名獲得し、空床を利用し退院後の在宅復帰までの療養的なロングSSを受け入れたため稼働率は高水準を維持できた。
1月	175%	※新規利用者を5名獲得し、空床を利用したロングSSを積極的に受け入れたため稼働率は高水準を維持できた。ロングSSから特養入居も検討している。
2月	198%	※新規利用者を3名獲得し、空床を利用したロングSSを積極的に受け入れたため稼働率は高水準を維持できた。しかし定期利用者の入院が多く思ったほど稼働率は伸びなかった。
3月	154%	※新規利用者を4名獲得し、空床を利用したロングSSを積極的に受け入れたため稼働率は高水準を維持できた。しかし定期利用から特養へ入居があったため稼働率は伸び悩んだ。
月平均(年間)	134.9%	

■利用登録者及び実利用者

月	利用登録者数		実利用者数
4月	43名	新規登録0名 削除1名 (死去1名)	24名 おうぎの里 DS 利用者は24名中6名
5月	44名	新規登録1名 削除0名	22名 おうぎの里 DS 利用者は22名中6名
6月	39名	新規登録1名 削除6名 (長期利用なし1名 施設入所5名)	21名 おうぎの里 DS 利用者は21名中7名
7月	41名	新規登録4名 削除2名 (長期利用なし1名 施設入所1名)	24名 おうぎの里 DS 利用者は24名中9名
8月	42名	新規登録2名 削除1名 (施設入所1名)	24名 おうぎの里 DS 利用者は24名中9名
9月	47名	新規登録5名 削除0名	27名 おうぎの里 DS 利用者は27名中10名
10月	48名	新規登録1名 削除0名	25名 おうぎの里 DS 利用者は25名中8名
11月	46名	新規登録2名 削除4名 (死去1名 病院・施設入所3名)	26名 おうぎの里 DS 利用者は26名中10名
12月	47名	新規登録1名 削除0名	26名 おうぎの里 DS 利用者は26名中10名
1月	51名	新規登録5名 削除1名 (病院・施設入所1名)	31名 おうぎの里 DS 利用者は31名中10名
2月	54名	新規登録3名	30名 おうぎの里 DS 利用者は30名中10名
3月	56名	新規登録4名 削除2名 (死去2名)	29名 おうぎの里 DS 利用者は29名中10名

制の強化に努め、新規利用者の獲得にも注力した結果29名の新規利用者を獲得した。

また特養の空床を長期の短期入所として積極的に受け入れた結果、年間稼働率は昨年度より上昇し134.9%となった。他の居宅介護支援事業者様にも「どのような相談も受け付け、受け入れが困難な場合には他のサービスを照会する」など個別に丁寧に対応する姿勢が理解され、「困ったらずはおうぎの里へ」との認識が定着してきた。居宅介護支援事業所を持っていない当法人は周辺の事業所との連携を強めるため、生活相談員と介護支援専門員が地域の居宅介護支援事業者等と一緒に地域内の問題に対応する有志団体「住よい町志和町ネットワーク」を設立し、事務局として運営にあたることで関係性を構築し、直接利用に結びつかないような案件でも「まず、おうぎの里へ相談」という流れを作ってきた。その流れが定着してきた。今後も居宅介護支援事業者にとって「相談する敷居の低いショートステイ」になり、さらには地域住民の皆様に頼りにされる事業所を目指し行動できた。

稼働月	延べ人数 (人)	稼働率 (%)	平均利用者数 (人)
R3 4月	175	83 (定員 10名)	8.3
5月	189	86 (定員 10名)	8.6
6月	173	79 (定員 10名)	7.9
7月	156	74 (定員 10名)	7.4
8月	188	82 (定員 10名)	8.2
9月	178	81 (定員 10名)	8.1
10月	152	72 (定員 10名)	7.2
11月	159	72 (定員 10名)	7.2
12月	170	77 (定員 10) 52 (定員 15)	7.7
R4 1月	162	81 (定員 10) 54 (定員 15)	8.1
2月	164	85 (定員 10) 56 (定員 15)	8.5
3月	204	89 (定員 10) 60 (定員 15)	8.9
合計	2,070		
年度平均	188	80 (定員 10名での平均)	8.0

前年度平均		76 (定員 10名)	7.6
今年度比較		4.0 ↑ U P	4.0 ↑ U P

※令和 4 年 12 月より定員を 15 名とし、コロナ禍でも前年を上回る過去最高の平均稼働率 80%(定員 10 名での平均)となりました。

※コロナや感染症での営業停止をする事無く、デイサービスを運営出来た。

※令和 3 年度は、新規ご利用者の方 11 名あり。(前年より 3 名多い)

※令和 4 年 3 月末の時点で登録者数 27 名。

3 名の方が死去され、1 名の方がおうぎの里特養へ入居。

※小規模であるメリットを活かし、コロナ禍でも安心してサービスを提供できる様に  
 デイ新聞やブログの活用、地域への発信 (パンフレットやポスター) や居宅や各地域  
 センターへの配信を行っていききたい。

※各居宅介護支援事業所の方々と連携を図り、引きこもりがちな高齢者や介護度が高い方な  
 どが一歩でも外へ出て地域の方々と少しでも触れ合える時間を作っていただけるよう、体  
 験利用などを通して今後も支援していく。

### ①介護支援専門員

- ・特養の計画書を3か月毎に変更したことでモニタリングやアセスメントも3か月ごととした。
- ・計画書の中に課題分析を入れるようにした
- ・地域貢献として地域食堂や外国人交流会などに参加
- ・認知症サポーター養成講座で中学校を訪問、オレンジ喫茶も開始

### ②管理栄養士

- ・食事時に利用者様の様子を自分で確認することにより、状況が把握でき多職種間で連携がとれたり、意見交換を行うことができた
- ・食事量、水分量の確保については、現場との連携によりほぼできている  
不足の方、栄養状態の悪い方は看護師とも連携し、補助食品についての検討を行う事ができている
- ・毎月のリクエストメニューを実現できるよう、厨房と連携をとることができている
- ・ソフト食の粉、米の購入を施設側が行うことにより、新メニューの検討、行事食のランクアップ、柔らかい肉を使用してもらうことができた。牛肉含め、柔らかい肉を利用することにより摂取量アップにもつながっている
- ・Ca ウェハースが不人気なため、令和3年7月から、月に1～2回、施設でCa入りシュークリームを購入することにより、接種ができる方が増えた

#### <地域貢献>

- ・今年度より、西部東保健所管内で給食施設栄養士研究会の役員を引き受け、他事業所との関りを持つことができています。各事業所栄養士の気にされていること等を共有することができ、それを栄養士会の研修につなげることができた

### ③医務室

#### 1) 健康管理

- ・新型コロナウイルス感染症のパンデミックから約3年が経過する中、ワクチン接種の普及・浸透と共にオミクロン株の特性をふまえながら新型コロナウイルス感染対策が日々変化してきた。当施設も流行状況に応じた対応を迅速に行い、感染予防に取り組んだ。しかし、オミクロン株の感染力の強さを反映して4月・8月・9月施設内感染が発生、8月はクラスターとなり終息まで1か月を要した。今後も気を緩めることなく早期対応を行い、流行状況を把握しながら感染対応をしていきたい。
- ・令和4年度は、2月時点で肺炎・腎盂腎炎・食事摂取不良等による入院が17件（前年度22件）、救急搬送は2件（前年度5件）であった。入居4件・退居は7件あり、体調の悪化に伴い医療依存度が高くなることから退所を迫られるケースが多い。医療機関への受診は、本永病院17件、内科10件、整形外科9件、眼科2件、耳鼻科2件、皮膚科1件、合計41件（前年度67件）であった。他にショートステイ利用者の同席受診も7件あり。定期受診の他に、高齢化・基礎疾患の重度化・介護度の上昇等によって医療度が上がってきていることも要因と考える。近年は、医療的ケアのニーズが高まり、施設内での医療サービスの提供も増えてきているのが現状だ。外部への受診はキーパーソンの協力が必要であるが、受診の付添いに時間を費やすことで業務に支障がみられ、医務への負担が増えていることも毎年の課題である。
- ・季節性インフルエンザが3シーズンぶりに流行入りしたが、発症はなかった。引き続いて標準予防策を周知・徹底していく。
- ・主治医の訪問診療日に診察・報告・相談を行い、必要時は電話連絡で対応して医療機関との連携を図ることで、安心できる医療の提供ができた。
- ・健康診断・原爆健診・定期検査や臨時の検査を主治医と相談しながら計画・実施し、健康管理に努めていった。
- ・入居者・職員を対象に、新型コロナウイルス及びインフルエンザの予防接種を本永病院と連携をとりながら実施した。

#### 2) 他職種間との連携

- ・看護師二人体制で各階を分担し、介護職員と連携をとりながら健康管理に努めた。一人勤務が多いため、情報共有しながら対応している。しかし、入居者に体調不良が出た時の受診等による施設外滞在時間が長くなることで、看護師への負担は増えている。
- ・多職種との「報告・連絡・相談」を密にして入居者の把握に努め、急な体調変化にも対応できるように本永病院と連携を深めながら真摯に対応していきたい。

### 3) 教育

- ・小規模施設では、施設内・外の研修への参加が固定されてしまう現状がある。医療依存度が高い入居者を介護施設が受け入れるには、職員の質の高いケアが求められる。お互い自己啓発に努め、知識の共有を図りながら互いにスキルアップしていくことが必要である。

### 4) 環境整備

- ・新型コロナウイルス集中対策の継続により、職員の感染に対する意識の向上が伺える。引き続き標準予防策・接触感染防止対策の徹底を強化していきたい。

## ④花ユニット

～方針として掲げていた、入居者様とのコミュニケーションやレクリエーションの充実を意識して行えた。季節の壁画づくりや、日常の体操やボール遊びなども日課として定着した。ブログでの情報発信、注文写真の更新も定期的に行う事が出来たので、今後も継続していく。職員間のコミュニケーションについては、お互い注意しあえる関係構築に努め、ユニットノートも活用し情報共有を図った。来年度より、記録がデジタルになるので、ユニットノートの活用と職員間のコミュニケーションを今まで以上に意識して行っていく必要がある。事故防止について、昨年ベッド上での介護による骨折事故が発生している。介護の基本を怠らず、防げる事故を防いでいく。そのためにも、「今自分たちが行っている介護が正しいのか」を職員間で話しながら介護していく。

手浴、足浴のスキンケアによって、水虫や褥瘡予防に努めた結果、改善が見られた。李絡子効果もあるので他の方にも楽しみの一環として提供していきたい。

## ⑤鳥ユニット

### \*年間目標

- ・毎月、季節を感じて頂ける行事は行えた。
- ・ご家族に安心して頂けるようブログ・写真の展示を行ったが、ブログをなかなか更新できず行事のブログはあるが、何気ない日々の様子があまり載せれなかった。
- ・写真の展示のに関しては、9月に1年分まとめて張り出してしまっていたので、毎月張り出すようにすれば良かったと思います。
- ・カレンダー・ノートの使用により業務（担当の仕事）を明確にできた。

### \*方針

- ・コロナの感染対策等の事情によりご家族の方との情報共有が難しい部分があった。
- ・職員間の情報共有については、ノートの活用により出来ている。最初は、記入漏れ、見忘れなどもあったが、現在は職員の意識も変わり記入漏れ・見忘れもなくなっている。生活環境については、日々の業務に追われ手が行き届いていない部分がありました。各居室に四季を感じて頂ける飾りつけを行い皆様に四季を感じて頂けるよう努めています。職員業務に追われ、入居者様楽しく離床されていないことありました。食事面では、皆質のたんぱく質の増加を目的とした新しい取り組みを行いました。

### \*機能

- ・機能維持を目的とし、体操等を取り入れてきましたが、コロナの間に機能低下が見られたりした為、都度見直しを行いながら取り組んでいます。

### \*事故

- ・大きな事故になる前にヒヤリハットにて未然に事故を防げるよう努めていたが「この事故未然に防げたのでは？」と思える事故も起こっている。

## ⑥風ユニット

～年間を通して入居者様の日々の情報の共有やノート活用し入居者様の情報を共有することが出来た。引き続きユニット内での職員間でのコミュニケーションをしっかりと

取っていく。今年度はユニット内でも転倒などによる重大なアクシデントが立て続けに発生している。立てた、対策をしっかりと行い事故防止に努めていく。また今年度は、ユニットでの行事は行う事は出来たが行事の写真の掲示などできていなかった、写真の掲示だけではなく日々の業務の中で職員の役割分担が出来ていないことが多かった、「誰かが」にならないよう、ユニット内での動き方を変えていきたいと思います。

#### ⑦月ユニット

～令和4年度はコロナ感染対応期間もありましたがコロナ禍でも毎月の行事や持ち帰り作品、誕生日カードを贈る事は出来ました。ブログも行事だけでなく日々の過ごし方などを掲載しました。来年度も引き続きたくさんの方の写真を皆様に見て頂けるよう更新していきます。令和4年度後半より転倒事故が続けて発生しました。職員間で利用者様の情報をしっかりと共有し事故のないよう利用者様が笑顔で楽しく過ごせるようコミュニケーションを図り、対応していきたいと思います。

### 3. 令和4年度住みよい町志和町ネットワークの活動（別紙活動報告あり）

#### 4. 施設職員構成

※令和5年3月31日現在

職名	職員定数	備考
施設長	1名	管理者兼務
副施設長	1名	生活相談員兼務
生活相談員	1名	副施設長兼務
デイサービス生活相談員	2名	介護職員と兼務
介護支援専門員	1名	
管理栄養士	1名	
看護師	3名	正看護師1名 准看護師1名（介護職員と兼務） 准看護師1名（非常勤）
事務員	1名	常勤
介護職員	25名	常勤15名、非常勤14名
介護助手	1名	非常勤
環境整備員	1名	非常勤
宿直員	2名	非常勤2名
嘱託医師	2名	非常勤2名

#### 5. 施設行事

※全体行事

- ・令和4年8月～10月にかけて施設内でコロナクラスターが発生したため

施設内での行事は中止した

※デイサービス年間行事 令和4年度

行事日	行事内容
4月	お花見行事
4月	クッキング（おやつ作り）
5月	母の日会
5月	クッキング（おやつ作り）
6月	カレーパーティー
6月	クッキング（おやつ作り）
7月	そうめん流し
7月	クッキング（おやつ作り）
8月	夏祭り
8月	クッキング（おやつ作り）
9月	クッキング（おやつ作り）
9月	敬老会
10月	ミニ運動会
10月	カレーパーティー
11月	文化祭
11月	焼き芋パーティー（外部も見学）
11月	クッキング（おやつ作り）
12月	クッキング（おやつ作り）
12月	忘年会（クリスマス会）
12月	おでんパーティー
R4年1月	新年会
1月	干支の置物作り
1月	クッキング（おやつ作り）
2月	節分行事
2月	クッキング（おやつ作り）
3月	雛祭り
3月	クッキング（おやつ作り）

- ・デイ体操（朝の会）は定着し、毎日行っている。
- ・フラワーアレンジメントや制作活動等、できた物を持って帰って頂ける事も行ってきた。
- ・常に感染対策を意識しながら行事を行なってまいりましたので、大きな特変なく一年を過ごしていただくことができました。
- ・毎月月末の週は入浴デイ（入浴剤を使用）を行った。
- ・外部のイベントや特養の入居者が土日を使用できるように模様替えを行った

6. 施設内研修

開催日	研修内容
-----	------

R4年 6月17日	感染対策委員会「感染症についての基本的な心構え」
6月28日	身体拘束廃止委員会「身体拘束のアンケートをして、みんなでその結果について考えてみました」
7月11日	高齢者虐待防止委員会「ユマニチュードを通して学んだこと」
9月15日	褥瘡予防対策委員会「褥瘡予防の為の介護技術～身体の清潔保持」
10月21日	感染対策委員会「食中毒及び、手洗いについての研修」
11月7日	高齢者虐待防止委員会「ユマニチュードを通して学んだこと」
11月30日	身体拘束廃止委員会「あなたの介護。利用者様から頼りにされていますか？あなたは、その利用者様を愛していますか？」
R5年 3月16日	褥瘡予防対策委員会「褥瘡と食事の関係、移乗介護による褥瘡予防」

## 7. 施設外研修

開催日	研修内容
R5年 2月10日	令和4年度結核・感染症対策研修会研修会 「施設で結核が発生した場合の対応について」

## 8. 避難訓練

※令和4年12月21日～夜間想定での避難訓練実施

※令和5年3月31日～日中想定での避難訓練実施

## 9. 感染対策

※令和4年12月3日～特養入居者様インフルエンザ予防接種

※令和5年2月2日～特養入居者様新型コロナワクチン予防接種（5回目）

※令和4年度1年間、感染対策をしながら施設内での面会を行うことができた